





三行法



三行法

相室

天根の露

天根

鈴生

鈴生

一見

一見

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

あまの

とほむもいづれあはれなるべし 春

知事のみちいひしむら 春

枕のしらべは花の香 春

頃ゆらばら 春

は 春

る 春

う 春

ほ 春

は 春

は 春

あ 春

あ 春

あ 春

あ 春

あ 春

あ 春

あ 春

あ 春

あ 春

あ 春

一 他方より来る者ありて... 漸月夜

一 此の地は... 山

一 此の地は... 山

何んぞ... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神...

はら

何んぞ... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神... 神...

給事十段(名) ... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

... 給事十段(名) ...

明
月
夜
名

春
酒

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

海
浪

流るる水は石を打てば音する如く
 友ありては心も安んずる如く
 清き水は濁る水より好む如く
 善き人は悪き人より好む如く
 花は葉に依りて生る如く
 善人は悪人に依りて立つ如く
 光は影を成す如く
 善人は悪人を成す如く
 花は葉を成す如く
 善人は悪人を成す如く
 光は影を成す如く
 善人は悪人を成す如く

流るる水は石を打てば音する如く
 友ありては心も安んずる如く
 清き水は濁る水より好む如く
 善き人は悪き人より好む如く
 花は葉に依りて生る如く
 善人は悪人に依りて立つ如く
 光は影を成す如く
 善人は悪人を成す如く
 花は葉を成す如く
 善人は悪人を成す如く
 光は影を成す如く
 善人は悪人を成す如く

とてしるすもあぢきなくはるはるにまはるる月を
信まのちもこのかたに神代もよみよみは
わかちしるすもあぢきなくはるはるにまはるる月を
男とてしるすもあぢきなくはるはるにまはるる月を
船のそとにまはるる月を
はるはるにまはるる月を
ちとてしるすもあぢきなくはるはるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を

よきこと

まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を

世を公

まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を
まはるるにまはるる月を

あぢきなく

うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
月をこぼるる心ももて極るる心一糸の如く
久聖をえらうとあつて胡夕務るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く

うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く

生りて根をたふさるる心一糸の如く
私の方をこぼるる心ももて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く

うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く
うらやまの果てり一筆とぞもて極るる心一糸の如く

新編

大いなる愛の心で人を愛する人は、
神の愛を受ける。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。

新編

神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。

神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。

新編

神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。
神は愛する人を愛する。神は愛する人を愛する。

おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは

おのころの月

おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは

おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは
おのころの月をよみしは

中は新木... 花... 時... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

... 夕方

娘の娘のまゝのまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
あはれもいふまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
いづれもいふまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
里なきといふまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
うちを病むまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
乃んかまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
泣きかはるまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
朝夕のまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
乃んかまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
あはれもいふまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし

恨みしことあるまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
あはれもいふまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
乃んかまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
泣きかはるまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
朝夕のまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
乃んかまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
あはれもいふまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
恨みしことあるまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
あはれもいふまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
乃んかまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
泣きかはるまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
朝夕のまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
乃んかまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
あはれもいふまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし
恨みしことあるまゝにけしは御もかり夜の花しとていせし

ふつふ

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, spanning the right page of the notebook. The text is written in a fluid, connected style.

実信

しん

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, spanning the left page of the notebook. The text is written in a fluid, connected style.

うへへのあそびをくくをけりて棹の幸に神の御つり
けりてうへにれり長朝夕。まはるも神の御つりて人ま
目だりてあそびの御つりて人まはるも神の御つりて人ま
けりてうへにれり長朝夕。まはるも神の御つりて人ま

よのつりて

あそびの御つりて人まはるも神の御つりて人ま
けりてうへにれり長朝夕。まはるも神の御つりて人ま
目だりてあそびの御つりて人まはるも神の御つりて人ま
けりてうへにれり長朝夕。まはるも神の御つりて人ま

あそびの御つりて人まはるも神の御つりて人ま
けりてうへにれり長朝夕。まはるも神の御つりて人ま
目だりてあそびの御つりて人まはるも神の御つりて人ま
けりてうへにれり長朝夕。まはるも神の御つりて人ま

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, spanning the right page and partially onto the left page.

Handwritten text in cursive script, continuing from the right page onto the left page.

Handwritten text in cursive script, covering the left page and continuing from the right page.

中々一と云ふも、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

そとに、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

は、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて

~~~~~

名を、（？） 鶴姫の足跡を尋ねて













Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the right page of the manuscript.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, covering the left page of the manuscript.

着たしめ標

信乃師... (Vertical text on the left side of the page)

あま... (Vertical text on the left side of the page)

非 量

Page number or marker

五

五

寶臨





